

ロシア

主要データ

国名〔英名〕	ロシア〔Russia〕
面積 (km ²)	17,098,200
海岸線延長 (km)	37,653
人口 (百万人)	141.4
人口密度 (人/km ²)	8.3
GDP (百万 US\$)	1,229,227
一人当り GDP (US\$)	8,694
主要鉱産物：鉱石	ニッケル、金、タングステン、ウラン
主要鉱産物：地金	ニッケル、銅、コバルト
鉱業管轄官庁	天然資源省、連邦地下資源管理庁
鉱業関連政府機関	国家埋蔵委員会
鉱業法	地下資源法
外資法	<ul style="list-style-type: none"> ・外資規制法、(国防の保障と国家の安全に戦略的意義を持つ経営団体への外国投資実施手順について) ・調整法(ロシア連邦法的文書の変更及び連邦法「国防の保障と国家の安全に戦略的意義を持つ経営団体への外国投資実施手順について」の採択に関するロシア連邦法的文書の条項の効力失効の承認について)
環境規制法 (環境影響調査制度、環境・排出基準の有無等)	—
鉱業公社	ARMZ Uranium Holding(ウラン開発国営持株会社)
近年の鉱業関連問題 (資源ナショナリズム、労働争議、環境問題等)	<ul style="list-style-type: none"> ・資源エネルギー分野の事業活動に対する国家管理を強めてきており、2008年5月、資源エネルギー分野その他の戦略的重要性持つ事業分野への外資参入を規制する法律を急遽制定した ・原子力(含むウラン開発)に関しては、従来の国内の民生用の原子力企業(国営)を統合し、原子力事業の上流から下流までを傘下にもつ国営企業体である Atomenergoprom を設立した。 ・ロシア内外でのウランの上流開発は、Atomprom 傘下の ARMZ に集約された
2009年のトピックス	<ul style="list-style-type: none"> ・戦略的に重要な産業分野への外資参入を規制する法律の施行(上述)。 ・2008年前半には、Norilsk Nickel など、ロシアの主要非鉄金属企業による大規模な外国資産・企業の買収、海外資産増強の動きとともに、国内事業拡大を目指したロシア企業間での再編の動きも見られた

1. 鉱業一般概況

ロシア国内では、従来からベースメタル、主要レアメタルとも既存鉱山の鉱量の枯渇、品位の低下、未開発鉱床のへき地化が懸念されている。いる。

こうしたことも要因となり、近年、潤沢な資金を活用して海外の資産を買収する動きが活発化してきている。具体的には、世界最大のニッケル、PGM 生産者 Norilsk Nickel による加 Lion Ore 社買収(2007 年 5 月、68 億 US\$)、ロシアの鉄鋼メーカーである Evraz 社による Anglo Americans 社保有の南アフリカ鉄・バナジウムメーカー、Highveld Steel & Vanadium 社の株式買収(2007 年 2 月、29%)、アルミ最大手 Rusal 社による Norilsk Nickel 社株式買収(2008 年 4 月、株式 25%+1 株)などである。

こうした、ロシア企業による国内・海外での資産買収、統合の動きは、欧米非鉄メジャーによる寡占化に対応するものとも見られていた。

また、国内的には、政府は、ここ数年、一貫して資源エネルギー分野の事業活動に対する国家管理を強めてきており、2008 年 4 月には、資源エネルギー分野その他の戦略的重要性持つ事業分野への外資参入を規制する法律を急遽制定したほか、原子力(含むウラン開発)に関しては、従来の国内の民生用の 80 余りの原子力企業(国営)を統合し、原子力に関わる上流から下流までの事業を行う国営の企業体「Atomenergoprom(AEP)」を設立してきた。

しかし、2008 年後半以降世界を襲った経済不況の中で、2009 年のロシア経済も例外ではなかった。原材料の輸出により外貨を獲得してきたロシア経済は、金属等コモディティ価格の下落により輸出収入が落ち込み、それに伴う原料輸出産業の低迷により国内需要が低下した。さらには、金融市場におけるロシア等の新興市場のリスクプレミアムの上昇、資金調達コストの上昇、ロシア・ルーブルの貨幣価値の低下、金融市場安定のための政府投資(320 億 US\$)に伴う財政赤字など、海外からの投資資金にとってもロシアへの投資を敬遠せざるを得ない状況が続いていた。

こうした中、ロシアの資源関係企業は、輸出による売上げが大幅に減少する中、高コストの鉱山や精錬・製錬所の操業を見合わせ、高効率の鉱山や精錬・製錬所の生産に絞る生産調整を行っており、結果として企業の業績は、2009 年 Q2(第二四半期)以降、持ち直してきている。

具体的には、Norilsk Nickel の場合、2009 年の業績は、売上高は 27%減少、EBITDA も 24%減少したものの、収益は前年の 5 億 55 百万 US\$の赤字から 26 億 51 百万 US\$の黒字に転じている。また、アルミニウム大手 UC Rusal 社の場合、2009 年の業績は、売上高は 48%減少、EBITDA も 83%減少したものの、収益は前年の 59 億 84 百万 US\$の赤字から 8 億 21 百万 US\$の黒字に転じている。このほか、UC Rusal 社は、2010 年 1 月、多大な債務問題(149 億 US\$)を解消するため、香港市場に上場し、26 億 US\$ の資金調達を行っている。

一方、ウラン分野においては、引き続きロシア政府、国営企業 ARMZ 社(AEP 社の 100%子会社)による海外でのウラン鉱山への進出の動きが目覚ましい。例えば、2009 年 8 月、モンゴルとのウラン鉱山採掘・加工のための合弁企業の設立合意、2010 年 6 月、ナミビアとウラン開発及び原子力発電所の供給などを柱とする原子力協力の合意等、さらには、2010 年 6 月、ARMZ 社がカザフスタンのウラン鉱山権益を有する Uranium One 社の株式を購入することで合意している。

これらは、ロシアとして、原子力分野、特にウラン開発、原子力発電の分野で国際的な優位性を保ち、米国、日本、フランス等の旧西側諸国との関係ではもちろん、中国、インドなどの新興国、さらにはアフリカ等資源国との間でも将来的な外貨獲得を含めた原子力産業立国を目指しているためと考えられる。

なお、現在、外資系企業としては、AngloGold Ashanti、Eurasia Mining(英)などが金を中心とした探鉱を行っている。

2. 鉱業政策の主な動き

(1) 一般

- ・ 2009 年に鉱業関係の制度において大きな変更はない。
- ・ ただし、財政赤字を補填する方策として、2009 年 8 月、企業、金融機関等が自由に希少金属、宝石用原石等を輸出できるよう希少金属・宝飾原石などの輸出入令を改正した。従来、Almazjuvelirexport 社が Norilsk Nickel 社やロシア中央銀行の代行分を含めて希少金属等の鉱石輸出を独占していた。同社は、引き続き精錬後の金属輸出は独占する。
- ・ これまでロシアにおける鉱物資源に係る法制度は、地下資源法に基づいているが、2005 年 6 月に閣議了承され議会下院(Duma)に上程された新地下資源法案は、審議が難航し、未だに成立の見通しは立っていない。同法案は、当初は、鉱区入札やライセンス取得方法を明確化し、外資も含め地下資源分野への投資促進を目的とするものであったが、その後、国家管理強化の方向に方針変更されている。
- ・ 一方、新地下資源法案の改正作業が膠着する中、2007 年 7 月、資源エネルギーのみならず、原子力、航空、軍事、出版、情報通信などの事業分野における外国投資を規制する法律「国防の保障と国家の安全に戦略的意義を持つ経営団体への外国投資実施手順について(所謂「外資規制法」)(連邦法 No. 57FZ)」が Duma に上程され、異例の速さで審議され、一部修正の後、2008 年 5 月にはプーチン大統領が署名、施行されている。
- ・ 本法律には、従来、地下資源法の下に定められていた石油・天然ガス、金属鉱物資源、ウランの採掘事業に対する外資規制も含まれている。このため、既存の地下資源法とのすみ分けを行う、所謂「調整法」(注：連邦法 No. 58FZ)とともに、公布・施行されている。

(注)「調整法」とは、連邦法「ロシア連邦法的文書の変更及び連邦法「国防の保障と国家の安全に戦略的意義を持つ経営団体への外国投資実施手順について」の採択に関するロシア連邦法的文書の条項の効力失効の承認について」のことである。

<「外資規制法」のポイント>

① 規制内容

本法の規制内容は、国防保障と国家安全に戦略的意義を持つ経営団体(=ロシア企業、「戦略的事業体」)に対する、外国企業による投資を規制することである。具体的には、戦略的事業体の一定量以上の議決権つき株式の取得等当該事業体の「管理権」を確立するような取引をロシア政府との事前協議・認可事項としている。

具体的に地下資源鉱区に関わる事業体に関しては、

- i) 取引の主体が外国政府の場合、次が規制(認可)対象となる。
 - ・ 5%超の取得
 - ・ 管理(経営)権の取得にかかる行為
- ii) 取引の主体が外国投資家(個人、企業)の場合、次が規制(認可)の対象となる。
 - ・ 議決権つき株式の 10%超の取得
 - ・ 取締役会などの合議制経営機関の構成員の 10%超の任命・選出権取得
 - ・ 管理(経営)権の取得にかかる行為

② 対象となる「戦略的事業体」(産業分野)

核・原子力関連、軍事・軍民療養技術関連、宇宙・航空関連、情報・通信の一部、地下資源の探査・開発など 42 分野。地下資源に関して、具体的には次のように書かれている。

ウラン：ウラン鉱の探査及び生産を含め、核物質及び放射性物質保管拠点、核廃棄物保管所の配置、建設、稼働及び稼働の停止。(第 6 条(5))

地下資源：連邦的意義を有する地下資源鉱区における地質調査又は(及び)鉱物の探査と生産。(第6条(39))

地下資源関連の事業体について、規制対象となる範囲(鉱種、規模など)は、「調整法」に明示されており、具体的には、以下のとおりである。

i) ウラン、ダイヤモンド、純度が特に高い石英原料、イットリウム族の希土類、ニッケル、コバルト、タンタル、ニオブ、ベリリウム、リチウム、白金族金属の埋蔵地及び露頭。

ii) ロシア連邦の1つあるいは複数の構成主体の領域に賦存し、国家鉱物資源登録規定に従い、2006年1月1日以降、以下の埋蔵量を有する埋蔵地。

- ・石油：可採埋蔵量7,000万t以上
- ・天然ガス：埋蔵量500億m³以上
- ・金(鉱脈金)：埋蔵量50t以上
- ・銅：埋蔵量50万t以上

iii) ロシア連邦の内水、領海、大陸棚の地下資源鉱区

iv) 利用の際、防衛、安全のための土地区画の一部を利用することが必要となる地下鉱区

つまり、金、銅鉱床については一定規模以上のものが規制対象となり、ウラン、レアメタルなどは規模に関わらず規制対象となる。

なお、例外としては、民間の外資が、ロシア政府が50%以上出資している会社が行う戦略鉱床の探鉱開発に参加する場合は、ロシア政府の事前承認は不要とされている。

③ その他、地下資源法との関係

「調整法」では、さらに、外国投資家が参加しないし実施した地質調査で、戦略鉱床が発見された場合、国は、探鉱ライセンスの開発ライセンスへの転換を拒否したり、試験生産中のものについては国家に脅威が発声する場合にはライセンスを停止することができることとなった。ただし、この場合、探鉱費用やサイン・ボーナスは連邦政府により補償される旨も規定されている。

(2) ウラン関係

- ・ 近年、国内においては、原子力関連事業の再編が進められ、国内の民生用原子力関連産業全てを傘下におさめる国営の持株会社「Atomenergoprom(AEP)社」がスタートした(2007年7月)。AEP社は、旧Rosatom(ロシア原子力庁)の民生部門の各機能を母体に設立され、ウラン採掘から濃縮、燃料加工、原発の建設・運転を行う原子力分野の80余りの国営企業を垂直統合した企業体である。
- ・ このうち、従来の体制でウラン採掘及び燃料加工を担ってきたTLEV社及び海外とのウラン取引、上流部門への参画を行ってきたTenex社(Techinabexport)は、AEPの一部となり、その過程で、両社のウラン鉱山資産は、AEPの100%子会社の持ち株会社であるAtomredmetzoloto社(ARMZ Uranium Holding)に移転された。
- ・ その結果、ARMZ社は、カザフスタン、ウズベキスタンでのウラン開発のJVのパートナーとなっているほか、カナダにおけるCameco社とのJV、アルメニアでのJVも交渉を進めている。また、2008年3月にはナミビアのVTB Capital社他との間でナミビアでのウラン探査のJVについて合意した。
- ・ 最近では、2009年8月、メドベージェフ大統領はモンゴルを訪問し、同国のウラン鉱山の採掘・加工を行う合弁企業を設立することで合意した。また、2010年6月、ナミビアとウラン開発及び原子力発電所の供給などを柱とする原子力協力で合意したと言われている。さらには、2010年6月、ARMZ社は、カザフスタンのウラン鉱山権益を有するUranium One社の株式を購入することで合意した(その結果、日本企業3社(東京電力(株)、(株)東芝及び国際協力銀行)が保有していたUranium One社の転換社債は同社に買い戻される予定)。このように、国策としての海外ウラン確保の実施機関として活動を活発化している。

3・主要鉱産物の生産・輸入・消費・輸出動向

(1) 主要非鉄金属鉱石生産量

表 1. ロシアの金属鉱石生産量

(単位：千 t)

鉱種	2007 年	2008 年	2009 年	2009 年増減比(%)
銅	770.0	784.8	742.4	-5.4
鉛	48.0	60.0	78.0	30.0
亜鉛	177.0	205.0	243.6	18.8
クロム	776.7	913.0	920.0	0.7
ニッケル	293.6	286.8	274.8	-4.2
錫	2.4	1.2	0.6	-50.0
モリブデン	4.8	4.8	4.8	0.0
ボーキサイト	6,053.9	5,301.6	5,301.6	0.0
アンチモン (t)	3,000.0	3,000.0	3,000.0	0.0
ビスマス(t)	10.0	10.0	10.0	0.0
タングステン(t)	3,000.0	3,000.0	3,000.0	0.0
金(t)	156.9	184.5	184.8	0.1
銀(t)	400.0	400.0	400.0	0.0
プラチナ(t)	28.3	25.2	23.2	-7.9
ウラン(t)	3,413.0	3,521.0	3,565.0	1.2

(出典：World Metal Statistics Yearbook 2010)

(2) 主要非鉄金属地金生産量

表 2. ロシアの金属地金生産量

(単位：千 t)

鉱種	2007 年	2008 年	2009 年	2009 年増減比(%)
銅	923.3	913.0	926.4	1.5
鉛	105.0	112.0	119.0	6.3
亜鉛	264.0	253.2	226.6	-10.5
ニッケル	267.0	260.4	246.5	-5.3
錫	2.5	1.4	1.0	-28.6
スポンジチタン	27.4	26.5	19.2	-27.5
マグネシウム	33.0	30.0	30.0	0.0
アルミニウム	3,955.4	3,800.0	3,188.0	-16.1
コバルト(t)	3,587.0	2,502.0	2,352.0	-6.0
テルル(t)	20.0	20.0	20.0	0.0
カドミウム(t)	556.5	556.5	556.5	0.0
水銀(t)	50.0	50.0	50.0	0.0

(出典：World Metal Statistics Yearbook 2010)

(3) 主要非鉄金属消費量

表 3. ロシアの金属地金消費量

(単位：千 t)

鉱種	2007 年	2008 年	2009 年	2009 年増減比(%)
銅	687.8	717.4	462.1	-35.6
鉛	54.1	46.1	42.4	-8.0
亜鉛	207.8	221.5	141.3	-36.2
錫	2.5	2.8	2.4	-14.3
ニッケル	26.4	26.4	26.4	0.0
アルミニウム	1,020.0	1,020.0	1,020.0	0.0

(出典：World Metal Statistics Yearbook 2010)

(4) 主要非鉄金属輸出力

表 4. ロシアの金属精鉱/地金輸出力

(単位：千 t)

鉱種	2007 年	2008 年	2009 年	2009 年増減比(%)	主な輸出相手国
銅鉱	2.6	4.6	7.4	60.8	
銅地金	274.6	206.9	465.8	125.1	蘭、トルコ、独
鉛地金	68.4	76.2	80.2	5.2	独、英、伊
亜鉛地金	88.7	141.1	104.3	-26.1	トルコ、蘭
アルミニウム地金	3,948.6	4,817.9	4,695.5	-2.5	米、日、トルコ

(出典：World Metal Statistics Yearbook 2010、World Metal Statistics July 2010)

(5) 主要非鉄金属輸入量

表 5. ロシアの金属精鉱/地金輸入量

(単位：千 t)

鉱種	2007 年	2008 年	2009 年	2008 年増減比(%)	主な輸入相手国
銅鉱	15.8	31.3	13.3	-57.5	カザフスタン
銅地金	0.0	11.3	1.5	-86.3	
鉛地金	17.5	10.2	3.6	-64.7	カザフスタン
亜鉛地金	32.5	23.6	19.0	-19.5	カザフスタン、ウズベキスタン
アルミニウム地金	16.2	23.7	32.4	36.7	

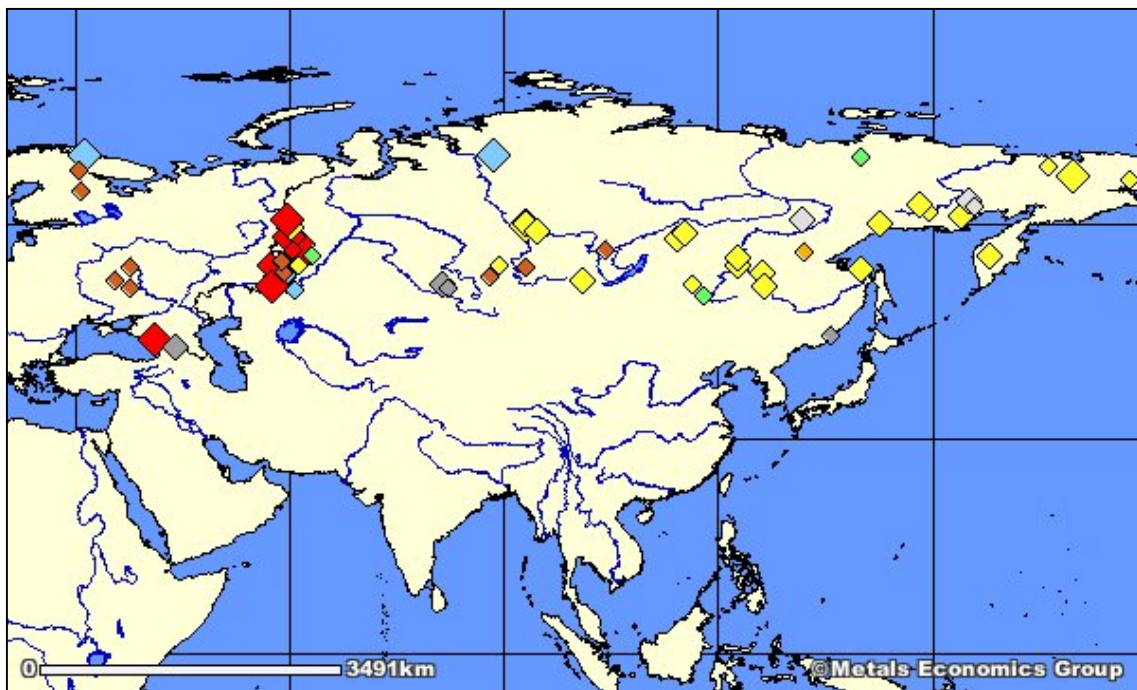
(出典：World Metal Statistics Yearbook 2010、World Metal Statistics July 2010)

4. 鉱山・製錬所状況

表 6. 鉱山一覧

鉱山名	権益所有企業 (権益：%)	鉱種	生産量 (千 t)	備考
Kola Peninsula	Norilsk Nickel (100%)	銅	18.0	生産量：2009 年
		ニッケル	36.8	
Taimyr Peninsula	Norilsk Nickel (100%)	ニッケル	196.0	生産量：2009 年
		銅	364.4	

		パラジウム	2,680 千 oz (76.0t)	
		白金	636 千 oz (18.0t)	
Gaisky Complex	UMMC(100%)	銅	100	UMMC(旧 UGMK): Ural Mining & Metallurgical Company 2012 年生産再開に向けて再開発中 生産量: 2007 年
Urupsky	UMMC(49%)、政府(51%)	銅	5.0	生産量: 2007 年
Uchaly(Uchalinsky Mining Combine)	Uchaly Mining(100%)	銅	49.5	UMMC が Uchaly を 38% 保有 生産量: 2006 年
		亜鉛	118.9	
Aleksandrinsky	RCC(100%)	銅	7.0	RCC(旧 RMK): Russian Copper Company 生産能力増強中 生産量: 2006 年
		亜鉛	-	
Deputatsky	NOK 他	錫	-	NOK: Novosibirsk Integrated Tin Works(露唯一の錫生産者)
Vostokolovo Dalolovo	NOK(52%)、他	錫	0.6	生産量: 2006 年
Olimpiada	Polyus Gold(100%)	金	839 千 oz (23.8t)	生産量: 2009 年
Kuranakh	Polyus Gold(99.4%)、Alrosa(0.6%)	金	135 千 oz (3.8t)	生産量: 2009 年
Khiagda	ARMZ Uranium Holding(100%)	ウラン	100 t	ARMZ: 旧 Atomredmetzoloto 生産量: 2009 年
Dalur	ARMZ Uranium Holding(100%)	ウラン	460 t	生産量: 2009 年
Priargunsky (Priargun)	ARMZ Uranium Holding(79.3%)	ウラン	3,004 t	旧 TVEL のプロジェクト 2008 年 7 月に ARMZ に移管 生産量: 2009 年
Elcon (Elconsky Mining & Metallurgical Company (EMMC))	ARMZ Uranium Holding(100%)	ウラン	開発中	ARMZ 設立以前は TENEX と三井物産のプロジェクト インドとの JV 模索中 2011 年開発移行予定
Gornoye	ARMZ Uranium Holding(100%)	ウラン	開発中	Berezovoye との共同開発予定
Olovskaya	ARMZ Uranium Holding(100%)	ウラン	開発中	



(凡例) ◆金 ◆銀 ◆白金族 ◆銅 ◆鉛/亜鉛 ◆ニッケル/コバルト ◆その他

図 1. ロシアの主要鉱山位置図

表 7. 製錬・精製所生産状況

	権益所有企業 (権益：%)	鉱種・形態	生産量 (千 t)	備考
Svyatogor (Kurasnouralsk) 銅製錬所	UMMC (100%)	銅	75.0	生産量：2009年(推計)
Sredneuralsk 銅製錬所	UMMC (100%)	銅	95.0	生産量：2009年(推計)
Kirovgrad 銅製錬所	UMMC (100%)	銅	80.0	生産量：2009年(推計)
Karabashsk 銅製錬所	RCC (100%)	銅	60.0	生産量：2009年
Kyshtym 銅精錬所	RCC (100%)	電気銅	80.0	生産量：2009年(推計)
Nadezhda (Norilsk) 銅ニッケル製・精錬所	Norilsk Nickel (100%)	銅	350.0	生産量：2009年(推計)
		電気銅	320.0	生産量：2009年(推計)
		ニッケル	123.0	生産量：2009年(推計)
		コバルト	2.0	生産量：2009年(推計)
Monchegorsk 銅ニッケル製・精錬所	Norilsk Nickel (100%)	銅	110.0	生産量：2009年(推計)
		電気銅	61.8	生産量：2009年
		ニッケル	110.0	生産量：2009年(推計)
		コバルト	0.35	生産量：2009年(推計)
Chelyabinsk 亜鉛精錬所	ChTPZ Group (100%)	亜鉛	119.9	ChTPZ Group: Chelyabinsk Zink Plant 生産量：2009年
Novosibirsky 錫精錬所	NOK (100%)	錫	2.0	生産量：2008年(推計)

5. 探鉱状況

①Norilsk Nickel 社関係

Norilsk Nickel は、生産を行っている Taimyr Peninsula 鉱山、Kola Peninsula 鉱山のほか、Zabaikalsk 地域の Chita プロジェクト(チタン・鉄・バナジウム)等で追加的な探鉱活動が行われている。

2009 年、Taimyr Peninsula 鉱山においては、従来の 3 鉱床 (Talnakh、Oktyabrsky、Norilsk-1) の内部に、平均品位：ニッケル 2.49%、銅 3.17%、PGMs 14.2g/t の銅・ニッケル鉱石を鉱石埋蔵量 5.8 百万 t 規模で新たに発見している。また、Oktyabrsky 鉱床では、17 本、合計 1 万 m のボーリングによる地質探査を行い、14 本で新たな銅鉱床が確認されたと発表されている。また、Norilsk-1 から 8-10km 南部の Maslovskoye 鉱床 (PGMs・銅・ニッケル) については、2006-2009 年の地質探査の結果を受けた FS 調査、国家埋蔵委員会への鉱床の登録を経て、2009 年 12 月に、探鉱・採取ライセンスが連邦地下資源管理庁に申請されている。

2009 年、Kola Peninsula 鉱山においては、探鉱活動の結果、2009 年には、Yugo-Vostochnaya Greymakha 鉱床の国家埋蔵委員会への登録、Vuruchuaivench 鉱床の PGMs の探鉱・採取ライセンスの申請等がなされている。

②ARMZ 社関係

2009 年 8 月、ARMZ 社は、Nizhny Novgorod 地域から南へ 180km に位置する Lukoyanovskoye チタン・ジルコンサンド鉱床のうちの Itmanovskaya 採掘現場の開発を開始したと発表している。Lukoyanovskoye 鉱床は、原子力産業に不可欠なチタン・ジルコン鉱床としてはロシア内で 5 大鉱床の 1 つであり、1 百万 t のチタンと 35 万 t のジルコンの埋蔵量があると言われている。計画では、2014 年までに生産を開始したいとのことである。

6. 我が国との関係

(1) 日本への輸出

表 8. ロシアの日本への精鉱 / 地金輸出力

(単位：千 t)

鉱種	2007 年	2008 年	2009 年	2009/2008 (%)
銅地金	1	0	0	-
鉛鉱石	4	6	0	0
亜鉛鉱石	0	46	0	0
亜鉛地金 (t)	811	0	100	-
銀地金 (t)	0	0	0	-
アルミニウム地金	369	419	231	55
ニッケル地金 (t)	9,318	8,356	5,390	65
フェロクロム	45	44	16	36
クロム地金 (t)	390	640	271	42
コバルト地金 (t)	36	7	0	0
フェロバナジウム (t)	187	396	21	5
白金族金属 (kg)	27,729	30,530	18,442	60
マグネシウム地金 (t)	154	1,023	527	52
希土類原料・製品 (t)	45	1	8	800

(出典：財務省貿易月表)

(2) 日本企業による投資状況等

2009年5月、プーチン首相の訪日時に、日露原子力協定が署名された。また、その際、二階経済産業大臣と露 Rosatom 社キリエンコ社長との間で、二国間の協力などを内容とする原子力の平和的利用に関する共同声明が署名された。

7. その他トピックス

2009年8月、シベリア南部に位置するロシア最大の水力発電所 Sayano-Shushuenskaya で発生した事故により、アルミニウム世界最大手 UC RUSAL のアルミ生産に影響が出るとのことである。同発電所から電力供給を受けている RUSAL の Syanogorsk (53.7万トン/年) と Khakas (30万トン/年) のアルミ精錬所は、現状ではその他の地域の発電所から短期的に電力供給を得て操業を続けている。しかし、これらの精錬所では同発電所の電力の70%を利用しており、一般の電力需要への供給枠の増加する冬場に向けて、今後電力を蓄積するとともに生産を控える予定である。同社の2008年のアルミ生産量は440万トン(世界全体では3,942万トン)、2009年上半期は198万トンであり、50万トン減は同社の年間生産量の11%(世界全体の1%強)に当たる。なお、この事故により Rusal が参画して建設中の Boguchansk 水力発電所(3,000MW)とアルミ精錬所(60万トン/年)の建設が急がれるところである。

(ロンドン事務所 萩原崇弘)